卒業制作・論文作品集 1

幾央大学
健康科学部健康生活学科
人間環境デザイン専攻

2006

The 1st Graduation Works.

Kio university
Course of Human Environmental Design.

卒業作品展開催に当って

畿央大学
学長　　冬木　智子

ご挨拶

新しい地に、新しく開学した畿央大学、健康科学部、健康生活学科人間環境デザイン専攻においては、建学の精神である「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」を理念とし、その実践に取り組んでおります。

この度、その夢と実力を如何に表現出来得たかの集大成として展示会を開催することに致しました。

人間生活の伝統と生命を育む、自然の中にとけこむ古い町並。その構築物に新しい生きる活力をよび起す環境とのバランスを考えた設計。又家族や個々に着用する衣服に対しては、製作者の探求心や美的な感性が繊細な技術で表現されている作品等、年齢、性差をこえた熱い心の息吹をこれらの作品を通じて感じて頂ければと切に期待いたします。

ここに本学第一期生ならではの、教員、学生一体となり取り組んで参りました成果をたたえると共に、更なる夢に向かっての精進を期待し、皆様方の温かいご支援をお願い申し上げる次第でございます。

人間環境デザイン専攻　教員講評

畿央大学健康生活学科人間環境専攻、第一期生の卒業生制作作品集が出来上がりました。手本にする先輩のいない中で、学生と教師が試行錯誤しながら、作り上げた第一歩です。学生それぞれの個性やこだわり、がんばりが作品の中によくあらわされていると思います。第一期生はこの経験を糧に、社会に巣立っていくことになります。これに続く後輩たちはこれら先輩を超えるような力を発揮してくれるものと期待しています。

人間環境デザイン専攻主任　教授　三井田康記

卒業研究、卒業制作というのは、大学で学んだ授業の知識を最大限に駆使し、自分が主体的に計画、立案し、作品や論文という形あるものにつくり上げるものです。完成された作品や論文は、本学に学んだ記録として学籍簿とともに、あなた達の足跡を残します。その意味をどの程度自覚していたかどうかは疑問ですが、それぞれの個性が報告集に刻まれています。非常に多彩で、広い範囲にわたるテーマが、そのまま、人間環境デザイン専攻の人材育成の特徴を表しているような気がします。

きっちりとコンセプトを立て、コンセプトどおりにまとめあげた人、最後まで迷いつづけていたような人、さまざまな人が居ましたが、見習うべき先輩がいない第1期生というハンディの中で、きっとそれぞれに完成させるまでの過程の中、学ぶべきことが大きかったと思います。もっと勉強しておけばよかった!という思いは終わってから実感として湧くものです。

締切り間際の緊張感は貴重な思い出となったことでしょう。これからのあなたたちの社会での活力になることを祈ります。

教授　佐藤昌子

全体的に見て空間に関する認識がやっとここまで来て目覚めたように思います。しかしながら、かなしいかな、建築というものをどこまで教育出来たか、はなはだ心もとない気は否めない。作品としての起承転結、発送の豊かさ、気の持ち方において、今少し情緒ある展開を望むところである。都市、建築は永年にわたってその生命を保つことが望まれる。単なる個の情感或いは衝動もさること専ら、自然都市の脈絡を読みとることの難しさを今後の体験にゆだねることとしたい。未だ道、歩み始めたこの学園においての一歩として今後の有り様の反省と将来に向けて、第一期という卒業生に大いなる発展を期待することである。

教授　中嶋龍彦

幼児向けの染色教本作りからドレス制作、そして大阪都心の町の再整備まで、多様なテーマで卒業制作が行われた。取り組みの出足が遅く、本当に作品が完成するのかと心配させられたが、締め切り日には、姿・形が整えられて安堵した。作品を見ると完成品に持ち込むまでの過程に重点を置き、ニーズの調査など綿密に準備されたもの、完成品の表現にこだわったものなどその努力が伺える。多分、多くの方々は、もう少し時間があれば、もっと良い作品に仕上げることが出来たのに、という思いを強めているのではと思う。その思いが、職場について、仕事に取り組む場合の糧につながる。今後、より良い作品づくりに挑戦されることを期待する。

教授　吉田秀雄

2007年2月　今年の冬は例年にないほどの暖冬でした。

4年前の4月に真新しい畿央大学へ入学された頃をなつかしく思います。今、4年間の集大成として　卒業研究（作品、建築模型、論文等）を完成させたみなさんは私たちと共に大学を創りあげてきた1期生です。1期生にしかできないことや、苦労したこともあったでしょう。しかし、それらの経験を生かし、それぞれの個性が感じられる良いものの芽が出てきたように思います。これをうまく育ててください。　やる気、努力、若さで突っ走れ!

長いようで短いこの時間を共に過ごせたことをうれしく思います。

ありがとう。　今後、みなさんが活躍されることを願っております。

助教授　井上龍彦

人間環境デザイン学科の第1期生を送り出すのに、昨年春、ATCで近畿の大学、専門学校の建築・デザイン・アパレル・ビジュアルの卒業作品展示会場を4回生希望者を募り引率して見学し同行した学生は早くから課題に取り組み作品の大きさ、モデルの完成度をつぶさに観察した体験から卒研も完成度も高かった。

全体に課題に対するコンセプト、調査収集不足、手軽にインターネットで調べそれが研究データーとしているのが多く、自分の足、参考資料検索、専門分野研究、社会環境、商品研究不足が目立った。

できるだけ卒業制作を通して全学生が何を悩み、どこが疑問?、何が分らない?何を知りたい?どこが技能指導が必要?材料手配は?等々　今まで専門分野が異なり接し無かった学生と話をする機会もあり、大変勉強になったが、惜しむらくはもっと早くから取り組んでくれたら、多くの事を指導できなかった事が残念である。

遅くまで学校に残り、諸先生、学友から多くを学び友情も育み、影響を受けたことは一人ひとりが「誇り」「財産」「宝」として社会に還元し大きく羽ばたいていく事を期待します。　成功を祈る!

講師　萩原義明

2日間にわたる卒業制作および卒業論文の発表を聞いて感じたことは、昨年秋の中間発表時に比べて、どの学生もプレゼンテーションの力がアップしたことだ。また、4年間の大学生活を通して、今回の卒業制作や卒業論文以外に、これだけの時間と労力を費やしたことは恐らくないであろう。長時間をかけて、苦労し、悩み、一つのことを成し遂げた〈達成感〉は何物にも変えがたいものがある。こつこつ積み重ねていくことの大切さ、計画性、分析能力などなど、今回の体験を通して学んだことは多いはずだ。社会に出てからも、この経験で学んだことを心の片隅に置いて、生かしてほしいと願っている。

講師　訓覇秋麿

先輩のいない畿央の1期生として4年間学んだことをひとつの作品としてまとめることは難しい作業だったと思いますが、最後までやり遂げた達成感はちゃんと覚えているはずです。苦労した時間も楽しかった思い出もそれぞれこれからの自分だけのオリジナル作品制作においてはすべていい経験として活かされることでしょう。今後のご活躍を期待しています。

講師　李沅貞

各人が、“自分自身の日常生活だけをデザインしたい”のだ、ということが、4年間の授業を通じて、さらに中間発表と最終発表とを見てよく理解できた。“多くの人の日常生活を支えるシステムを丸ごとデザインし、それをバージョンアップし続けよう”、とはまったく思わないこともだ。これはもう仕方ない。高度経済成長はもうしないし、サービス産業(その場にあなたという人間存在の商品がないと成立しない仕事)の中で働いて、陰に陽に高齢社会を支えていかなければならなくて、そんな中で、“自分自身の日常の着地点や、自分の一生の思い出だけは自分のデザインをしたい”、と各人が思うのは当たり前。こうした“かけがえのなさ”でさえ、グローバル化社会の中での取引道具・商売道具でしかないという皮肉も、各人が十分に自覚していると思う。還る場所のある逃げ切り世代との対決は、もはや避けられないことだね。行くしか選択肢はないのなら、ただただ、行くんだ!

講師　金敷大之

発表会第一日目の午後からプレゼンテーションを視聴させていただきました。

視聴させてもらった何れの論文・作品も、真摯に取り組まれた成果の発表でした。

大多数の制作テーマは、まちづくりを通した建築物の設計でしたが、対象の地域の現状の把握やまちづくりの構想に一層の深まりがほしかったように思います。また、建築物の設計に当たっては、構造面の裏打ちが少し弱かったように思います。例えば、古民家を改造して、大きな空間をつくる場合に、避けて通れない「耐震補強」とも兼ね合いなどが欠落していたようです。

優秀作品に選ばれた下川さんの作品は力作で、しっかりしたまちづくりの上に、建築物の設計・計画（構造計画も含め))も堅実ですばらしいものでした。

模型は何れも力作で、古民家は非常にリアルに制作されていました。

講師　岡井豊治

卒論発表会が終了しました。作品集用の撮影を終えた作品を前にして、一年の日々を思い出すと同時に、指導教官として学生の力を十二分に引き出すことが出来たのかを私自身に問いかけています。卒業生の皆さんは就職活動、アルバイト、自分の抱える諸事情とバランスをとりながら卒論、卒制に取り組まれたことでしょう。作品の中でひときわ輝いているものは綿密な計画のもとでその過程に時間をかけ、何度も手直しを加えたものと推測されます。結果的に合格したものであっても、この1年でつけた力は個々様々です。みなさんが発表した作品は自分の限界に挑戦したものと、自信を持って言えますか?「はい」と答えられる人には拍手を送りましょう。そう答えられない人には、「後悔しないためにも、自分に自信を与えるためにも、今後は、与えられたチャンスには、真正面から全力で取り組んで下さいね。」と送りたいと思います。

講師　村田浩子

人間環境デザイン専攻

Course of human Environmental Design

D0313125

下川愛美

『SUO Park Road』

近年、中心市街地の衰退が問題視される中、商業まちづくりの重要性が必要とされている
大阪の貴重な財産である「水」

水・風・時の流れを感じ
やすらぎを与える空間へ

大阪ミナミの活性化と共に
「水の都」を再生していく

D0313104
井上朋信
D0313109
大野慎弥
D0313252
松原　仁

『車椅子の人でも
使用しやすい衣類収納』

（寸法）
タンス
高さ:1000mm 幅:600mm 奥行:450mm
タンス上の本棚
高さ:500mm 幅:600mm 奥行:400mm
クローゼット
高さ:1500mm 幅:600mm 奥行:650mm

車椅子利用者の目線から、手を前後や上下に伸ばす動作実験や目線の高さの計測を行い、使用しやすい高さや奥行きなどを調べ、健常者との差異から車椅子使用者でも使用しやすい収納家具を提案した。

D0313108

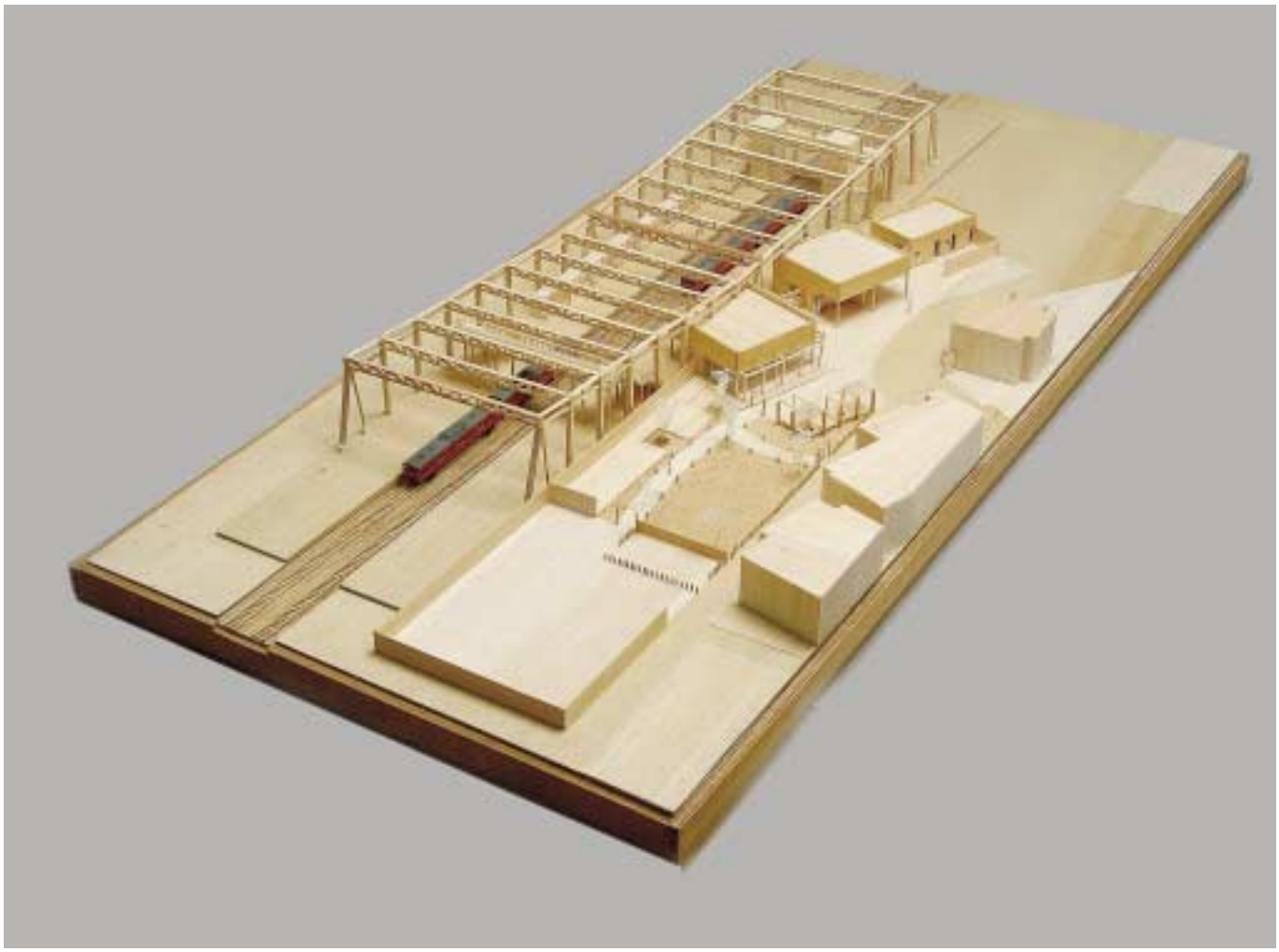
種田奈央美

『the port of Otsu』

水と遊ぶ

水を感じる

水に親しむ

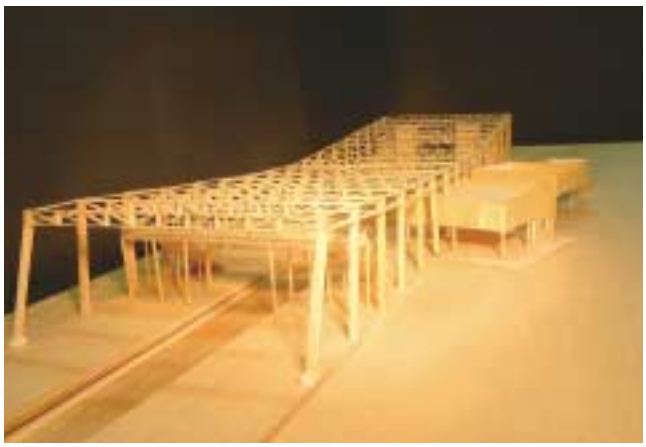


D0313126

白井達也

『駅の再生と調和
～木造駅舎と町並み～』

JR三輪駅に表情を与えました。
駅が持つ強い影響力を活かして、
木造トラスと駅舎を提案しました。
駅舎の機能を三つに分散させる事により、
一つ一つの建物に表情を与え、
駅舎を道の正面に向けるようにして、
商店街へ人の流れをつくり、
賑わいを考えました。



D0313129

辰巳和洋

『桜井･三輪の町並みを
継承する住宅の提案』

桜井･三輪の活性化に繋げるために･･･
問題は町並みの統一感がないこと。
現代の家と古民家の二つを共存させることができないかということで、伝統的な町屋を参考に、桜井･三輪の町並みに合う住宅を考えた。

D0313233

俊田浩幸

『三輪における古民家再利用』

古民家の再利用により、まちを活性化する。

D0313237
西山直樹
D0313257
南口晃平

『指導教本』

「見てわかる。」

D0313241

橋本政幸

『三輪神社の参道活性化計画』

参道に休憩所やイベント時の
仮設店舗を提案することによって、
街の活性化につなげます。
参道に沿って、庇と塀を設置、
町並みの雰囲気を演出し、
イベント時には庇から日よけをのばす事に
よって、仮設店舗の完成です。

D0313259

森岡大道

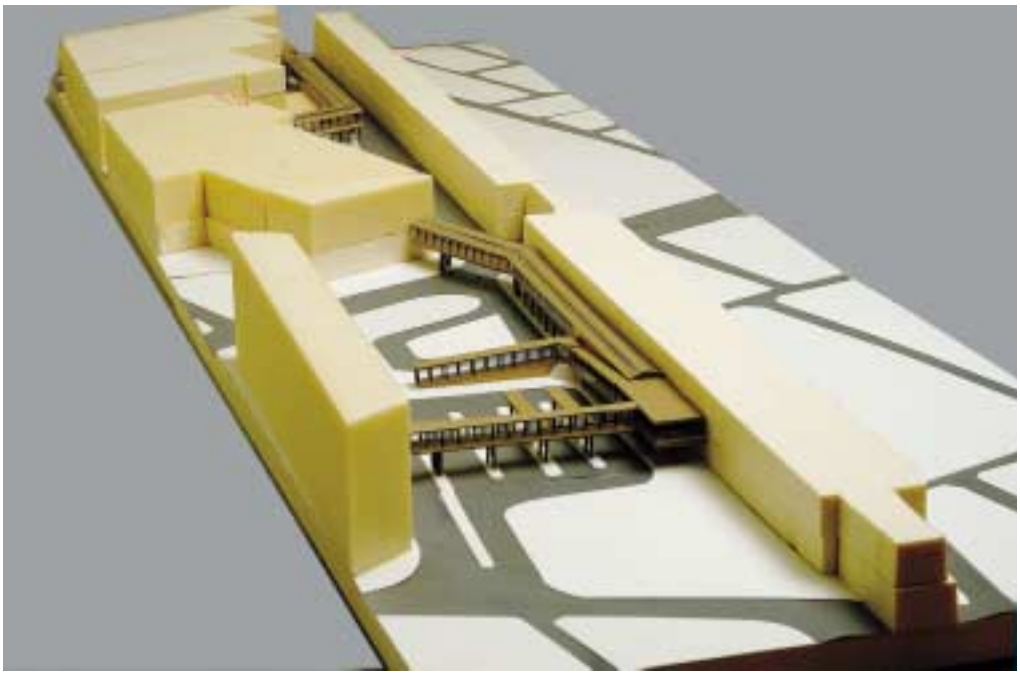
『歩いて楽しめる
三輪の案内システム』

三輪を歩いて楽しめる町にしたい。
三輪には町中に案内できるものが
存在しない。
三輪の景観を阻害しない道標の作成。
街中への誘導。
景観に似つかわしくない建物の修景を含
めた休憩所。

D0313101

安東寛晃

『町のバリアを無くす架け橋』

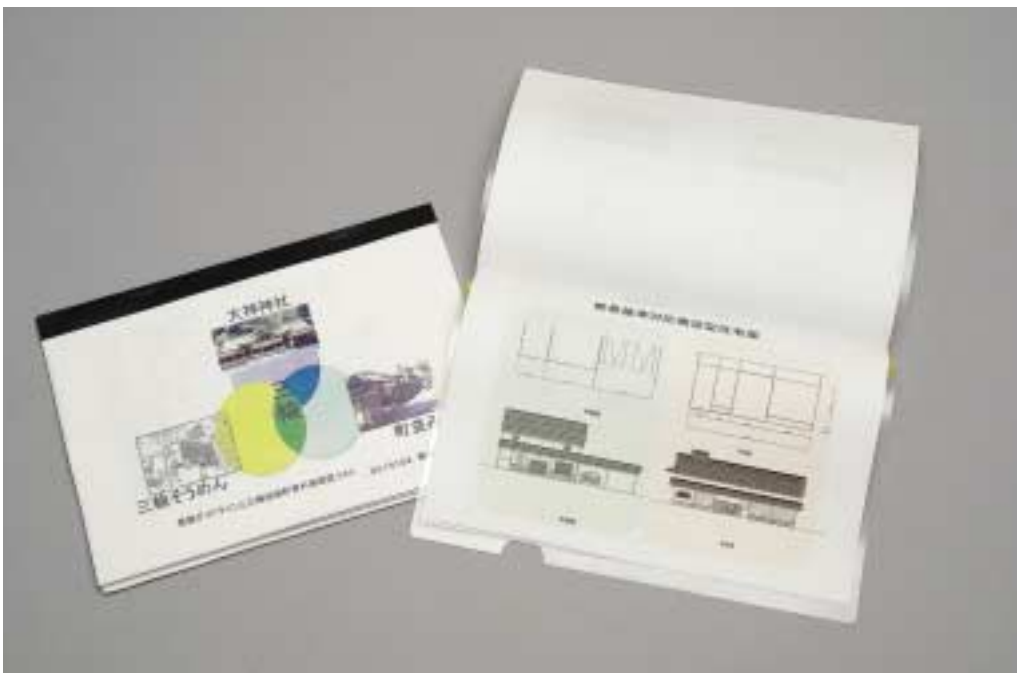


人の交流は町を活性化させる
交通量の多さが、人の交流を妨げる
「人の繋がりを深めたい!!」
文化会館への架け橋をつくることにより、
人同士の架け橋もつくっていきたい。

D0313102

稲垣　豪

『景観ガイドラインと
　　三輪地域町家外部意匠リスト』



三輪地域の町家は点在しており、住民の
景観意識は低いと思われる。
そこで、市役所の方からの希望もあり、
住宅の外部意匠のデザインをリスト化。
その後、景観についてどうすれば良いの
か具体的に表にまとめた。

D0313103

稲垣祐司

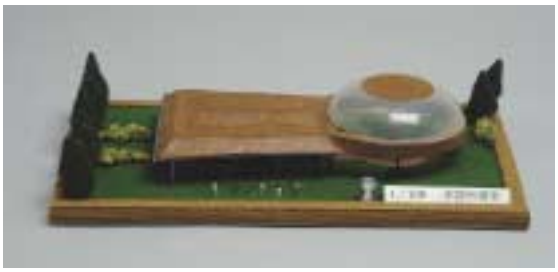
D0313243

東島功治

D0313262

吉川久嗣

『「クリーン＆歴史ウォーク」実施体験から地域環境の整備展開』



「クリーン＆歴史ウォーク」の活動で巣山古墳を訪れた際、古墳をはじめ周囲の環境に不便さを覚えました。そこで古墳周辺の環境整備をし、デザインに前方後円墳の形を取り入れた休憩所と古墳の案内表示板を設置しました。

D0313105

岩本明日香

D0313239

野中宏恵

『ユニバーサルデザインの視点から考える女性用衣服の改良』

誰もが多かれ少なかれ持っている、体型に対するコンプレックス。
その中でも、女性の胸からウエストのラインに対するコンプレックスに着目しました。
手術や矯正下着のような身体的、且つ金銭的な負担をかけることなく、衣服の改良によって女性の体型を綺麗に見せることができないかと考えました。

D0313106

上村兼一

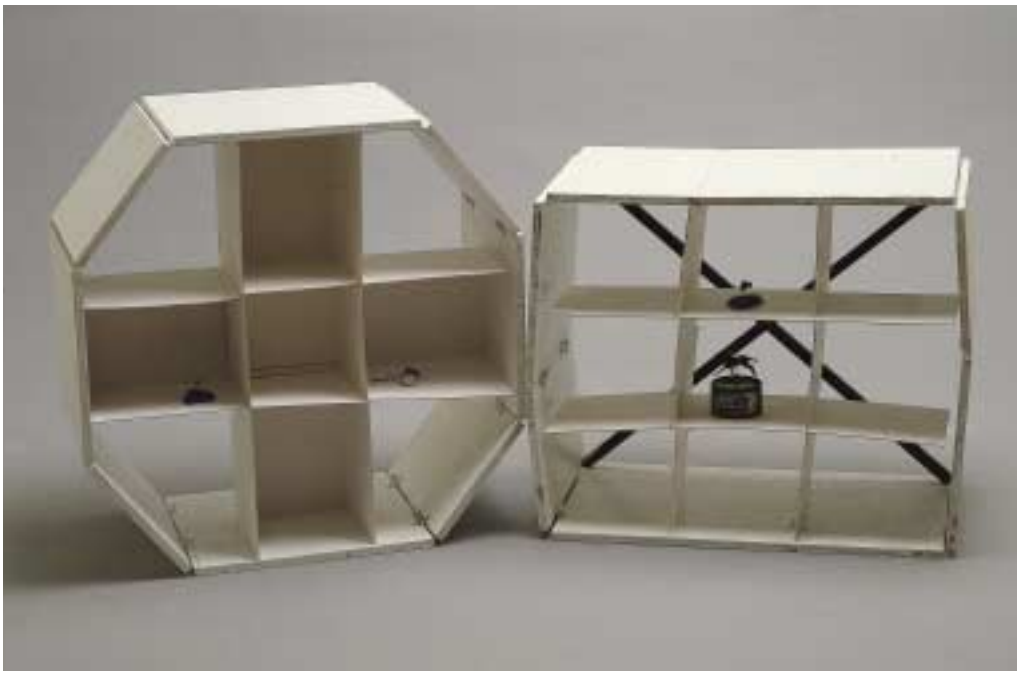
D0313124

島村聡介

『誰でも組み立て・分解容易な、収集作品の保管・整理するための収集棚』

（寸法）
左 高さ:560mm 幅:550mm 奥行:250mm
右 高さ:375mm 幅:430mm 奥行:225mm
（素材）シナベニヤ

僕たちはそこに目をつけました。狭い空間のなかで、いかに自分のイメージにあったディスプレイを作れるか?と考えたところ、いつでもディスプレイ形式を変えられるような自由な棚があってもいいじゃないかと思いいたりました。
しかも作業時間が簡単であれば、よりディスプレイにも自分のこだわりが持てるのではないかと思い至りました。



D0313112

金城商助

『椅子と照明の融合』

（寸法）高さ:880mm 幅:900mm 奥行:775mm
（素材）シナベニヤ（15mm）

自身の就職予定先である無印良品にも生かせるものを作りたいと思い、
看板効果のある椅子は商品及び店舗を引き立てると考え、「椅子と照明の融合」をテーマに制作しました。

D0313113

北川晃久

『舞』

（寸法）
高さ:1528mm 幅:910mm 奥行:1272mm
（素材）プラスティック、パイプ、
（土台としてコンクリートブロック）

私の地元、奈良県大和高田市は静御前の生まれた地であると言われている。
しかしそれはあまり知られていない。
それを多くの人に知ってもらいたいというコンセプトを基に静御前をイメージしたモニュメントを制作した。

D0313114

黒田　壌

『花博通り整備計画』

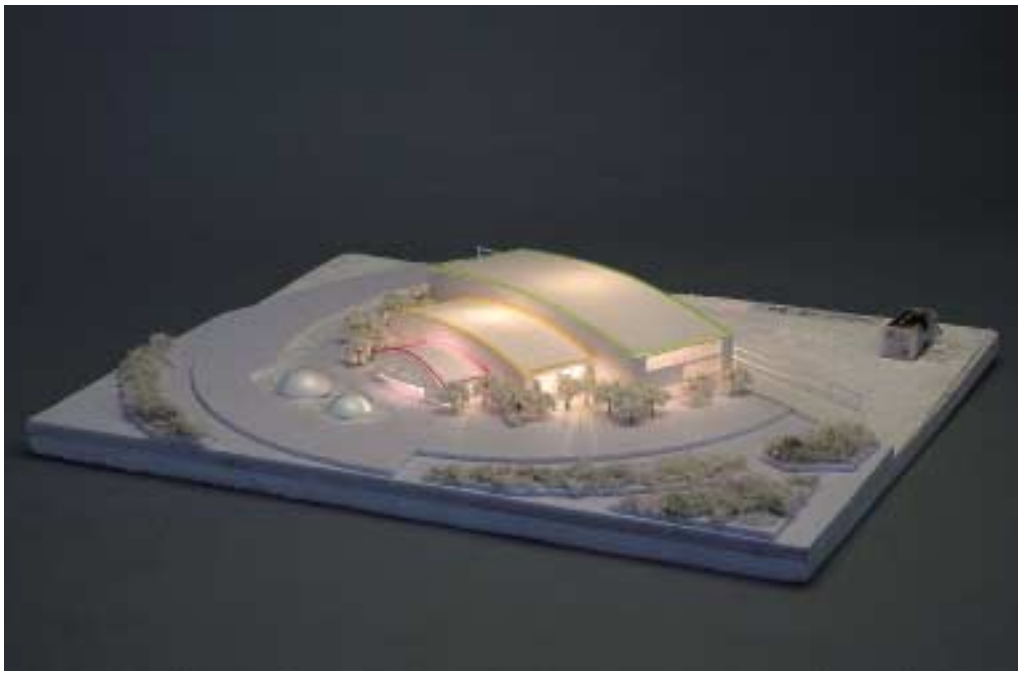
（模型寸法 1/2）
高さ:1640mm 幅:260mm 奥行:110mm

かつて国際花と緑の展覧会が行われた鶴見緑地公園。その花博のアクセス路として整備された通りが花博通りである。歩行者にとって安全性と快適さを配慮した空間作りをすると同時に花博を感じさせる場を作る。

D0313115

小坂晃司

『浜の憩い』

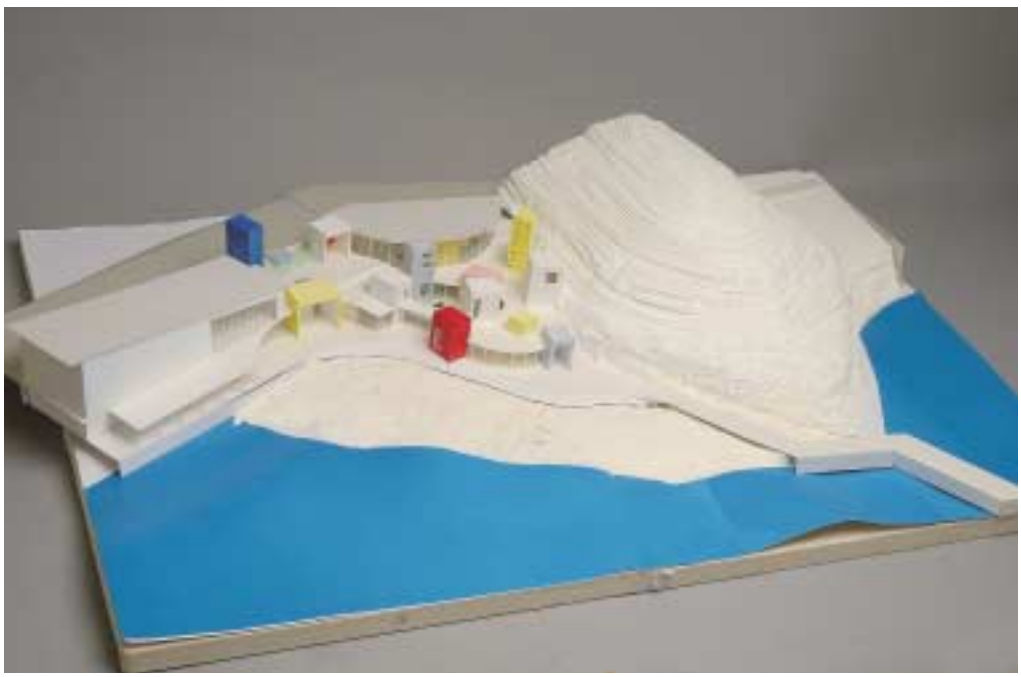


建物だけがメインではなく、
その周りの場所を「楽しい空間」
として過ごしてもらう。

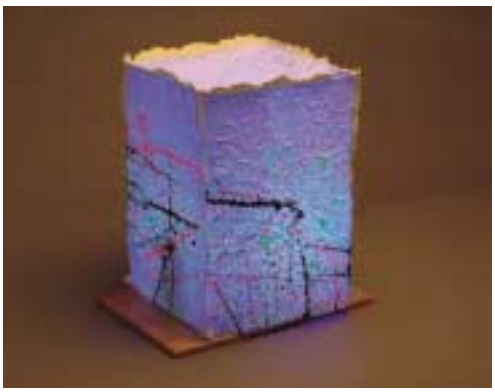
D0313116

小西可奈子

『美術館』



トンネルの再利用と共に和歌浦の活性化
をはかる美術館。
BOX型の展示室をランダムに配置し、
まるでおもちゃ箱を行き交いするような、
美術館と海の間を散歩するような
自然一体型計画。



D0313117

小山　慧

『2つの役割を果たす照明』

（寸法）
照明部分
高さ:355mm 幅:300mm 奥行:300mm
土台部分
高さ:150mm 幅:450mm 奥行:300mm
（素材）ひのき、和紙

照明として使われる事の少ない
ブラックライトと蛍光灯を切りかえ、1つの
照明に2つの顔（役割）を持たせました。

D0313118

西家一隆

『日本を感じさせる椅子』

（寸法）高さ:830mm 幅:1300mm 奥行:560mm
（素材）ひのき、綿、和紙

日本らしさ、日本の良さを表現した椅子の
デザインを考えた。
また、足部分を可動式にして3パターンの
座り方ができ、利便性を高めている。

D0313120

坂本竜之介

『懇願・束縛』

異世界の不気味な雰囲気を表現しました。

D0313121

崎山　亮

『セレクトショップについての研究』

10歳代～20歳代の好みの傾向を把握し、
新商品を提案。

D0313122

重山晃輝

『A,D』

（寸法）高さ:1500mm 幅:600mm 奥行:600mm
（素材）石膏、木材

ハイキングコース上の道標の新しい形。液晶画面による案内表示でこれまでの道標よりも目的地の詳細、正確な道のりを知ることができる。外観をステンレスにすることにより劣化を防ぐ。

D0313128

武田章吾

『ライフステージ別の住宅提案』

住宅、敷地の利用方法で生まれてくる可能性の一つとして、『長く住み続けることが出来る住宅』をコンセプトとし、ある敷地と住宅を素材にしてそこに住む家族のライフステージに合わせて変化する住宅を提案しました。

D0313130

田中利典

『Hito No Eki』

情報発信施設として一番大切なことは
その土地を知ってもらうことである。
この施設では、その土地を感じて知っても
らうことを目指した。
「知る」と「感じる」でその土地を要約する。

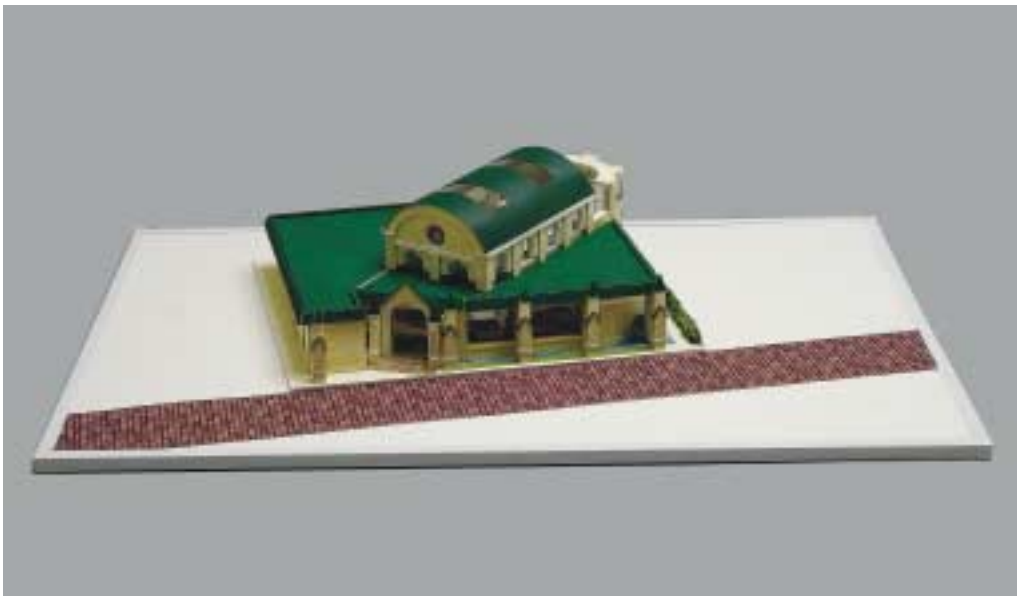
D0313131

寺本望美

『幼児用滑り台』

（寸法）高さ:450mm 幅:1700mm 奥行:1240mm
（素材）シナベニヤ、塗装コンパネ、アガチス板

Let's play



D0313132

得永真由美

『飲食店のトータルデザイン
「新と古」が共存した憩いの空間』

五位堂駅周辺（広陵町）の新興住宅地と馴染むような新しいものを、古くから人々の心の拠り所とされてきた教会（ゴシック建築）をモチーフに、新しく古い憩いの空間を創り上げる。

D0313234

中井一貴

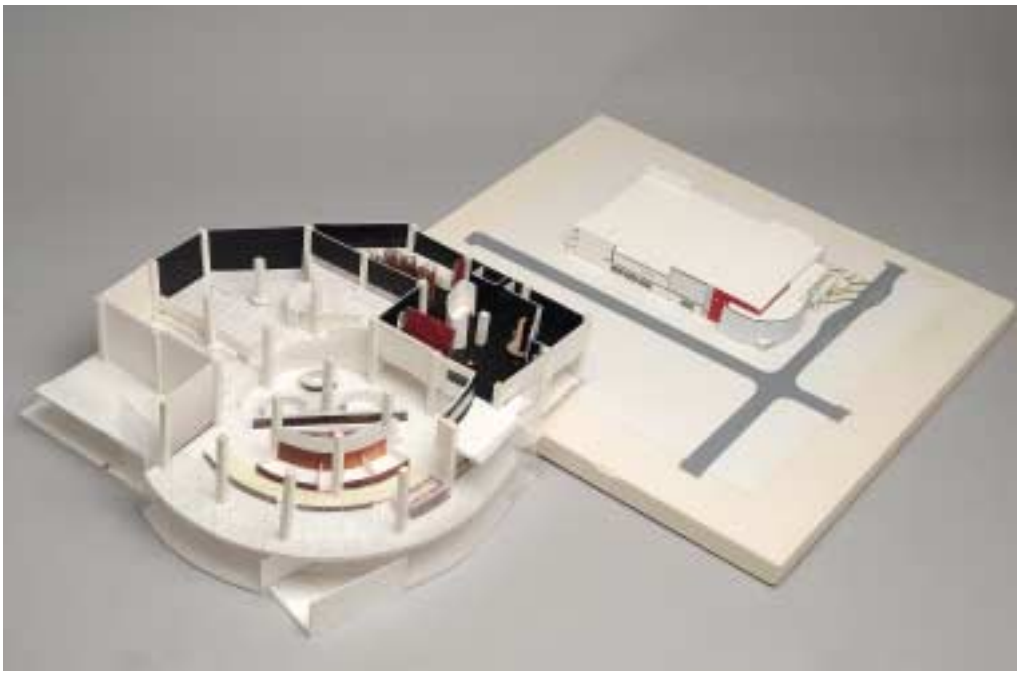
『平野郷復元』

老若男女が1年を通し、自然と足を運んでしまうと、懐かしい香りが癒してくれる「町が本来持つ魅力」+「癒し」を、平野に計画。

D0313236

仲河美里

『エコール・マミ改築』



ただ買い物目当てではなく
学生、地域住民が“食”を通して
楽しめる空間を提案しました。
1人で落ち着ける空間や、多人数で楽しめる空間、外の景色を味わえる空間、お酒を楽しめる空間など種々な空間を作ることによって、その日の気分に対応できるように考えました。

D0313238

野澤春城

『ムーディな照明と
それによる空間演出』

（寸法）
左
高さ:240mm 幅:190mm 奥行:190mm
右
高さ:200mm 幅:150mm 奥行:150mm

そこに長くいたくなる様な、
ムーディでリラックスできる小空間と、
それを演出するための照明づくり。
草木を配置し、自然をイメージ。
照明は木の球（根や細い枝が絡まってできるもの）をイメージし、有機的なデザインにした。小空間自体はどちらかというと、暗めで私のつくる照明が主な光源となる程度。

D0313240

橋口雄祐

『駅とデパートの総合施設』

名張駅近郊では土地開発が始まり、
以前田んぼや畑だった土地は更地になっている。その土地を使って駅を改築し
デパートと一体化すれば街は活性化し、
ベッドタウンから新たな街へと進化すると
思われます。

D0313242

服部早織

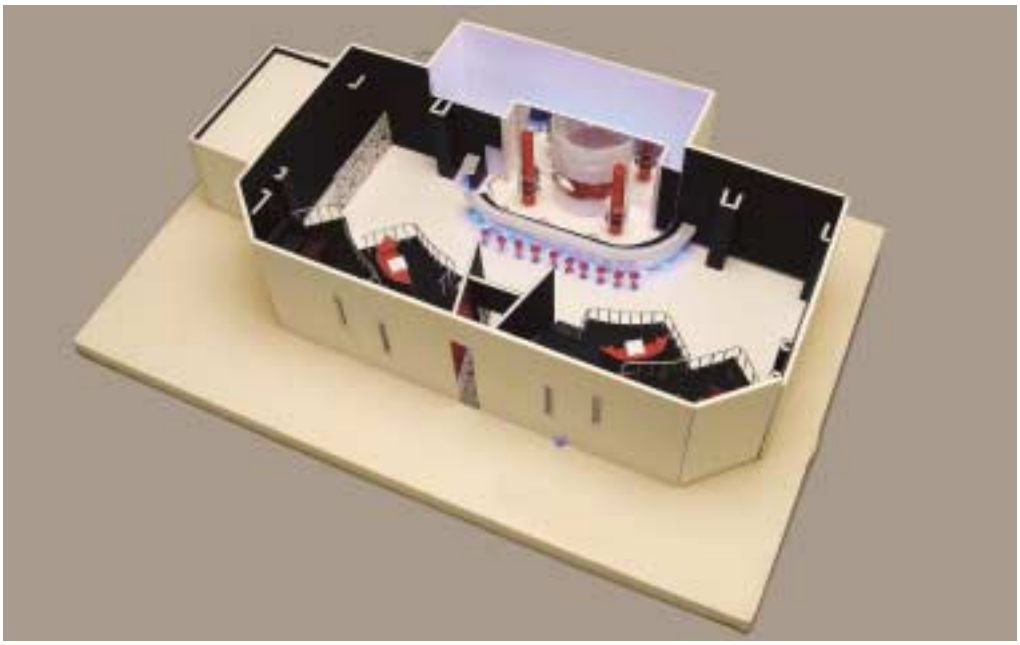
『古民家改築・銭湯』

古民家改築により、
まち全体の景観に統一感を持たせ、
三輪の町家という観光資源を作る。
また、コミュニティ施設として使用できるようにし、観光客や地域住民の交流の場・憩いの場として提供する。

D0313244

福田悠起

『癒しの空間デザイン』



落ち着いた雰囲気のBar。
ライトと和紙を使って幻想的な空間を演出。
みんなでしっぽりしてください。

D0313245

藤木大輔

『ユニバーサルデザインの視点から考える高齢者の衣服』

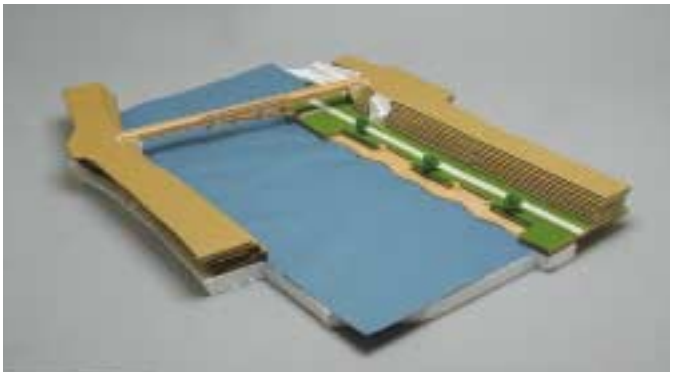
祖母の言葉から衣服のリフォームを仕上げたいと感じた。

あまり例がない衣服のリフォームの効果検証する。衣服の視点からQOLの向上をはかる。

D0313246

藤山昌平

『親水公園と橋と景観』



橋のデザインイメージは「船」
欄干は曲線にすることで船首を、ワイヤーで船底を表わしている。
河川のデザインイメージは「船着き場」
三輪地域の新たなランドマークにする。

D0313247

槙尾善弘

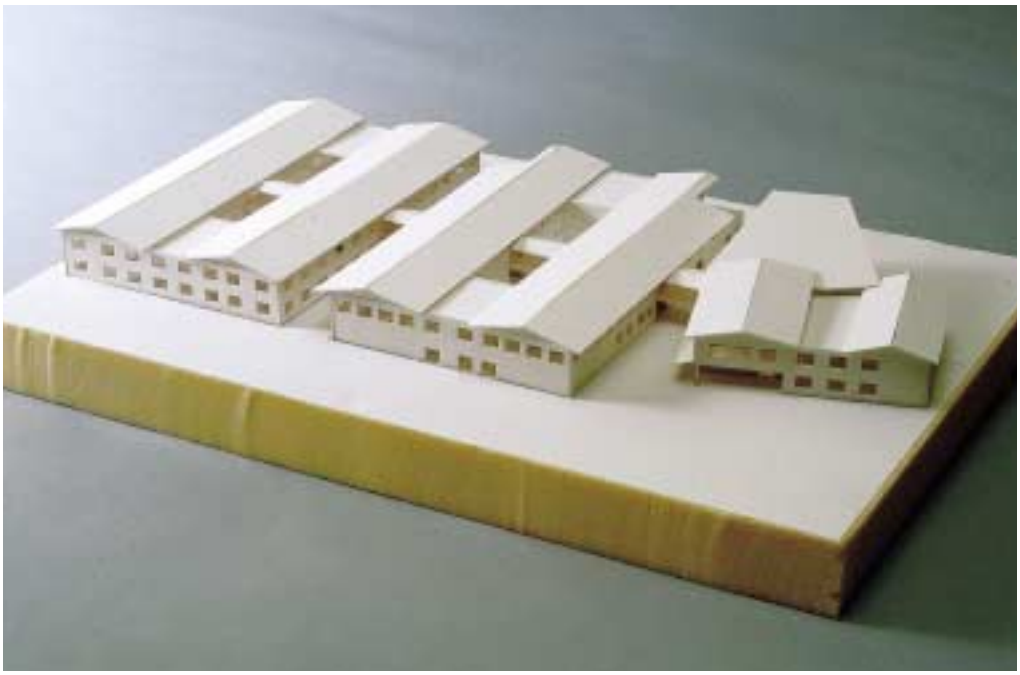
『KDKモードショウへの出展、
大学で学んだアパレル』

音楽と衣服の融合、美しさをドレスで表現、
音楽のもつ優美さ、安らぎを作品に込めた。

D0313248

松井良太

『農学校in太子町』



現在廃れていて、近い将来必要であろう農という分野において、我が町で学校を作りたいと思いました。

D0313250

松田康宏

『高塚公園リニューアルオープン』

新興住宅地にある高塚地区公園が昼間、夜間とも人がいなく閑散とし危険地帯となっているので、安心して魅力ある公園にリニューアルした。
水をテーマに水生小動物が生息する池・小川とカフェを公園の中心に設け地域市民の活動の場所とした。

D0313255

三橋俊介

『洋食店における
経営戦略とブランドデザイン』

地域客層を20代から40代の男女を中心に1階を喫茶、2階をレストラン、3階はドリンクコーナ、4階は360度の展望で昼間、夜間眺望できる憩いの場所としカードで入出門、販売自由。調理場・冷暖房空調・ドリンク棟の3棟は機能分割とし、店のブランドデザインを特徴づけた。

D0313260

八木久恵

『桜井市三輪における
古民家再生利用案』

大神神社をはじめとする数多くの境内や古い姿を残した家並を活かしゆっくりとできる環境をつくり、賑わいを取り戻すきっかけづくりを目的とした施設の提案をした。

学校内におけるコミュニケーションメディアの選択
～畿央大学学生を対象とする現状調査より～

健康科学部　健康生活学科　人間環境デザイン専攻
D0313107　瓜野貴之

【要約】

現在,環境としての携帯電話は,もはや日常化した自明のものとなっている実態がうかがえ,このような環境において,コミュニケーションメディアの選択と称し,1.直接（対面）･2.電話･3.メールの使い分けについて,2006年現在畿央大学における人間関係についてどのコミュニケーション手段を用いるかを,携帯電話との関連で明らかにすることが本研究の目的である。

調査方法としては,コミュニケーションメディアの選択と称して質問紙を用い,各21項目に対して,直接･携帯電話（電話･メール）の3肢強制選択を,学外でもつきあいのある相手,および学内でしか会わない相手のそれぞれについて回答を求めた。

今回のデータを見て思うこととして,コミュニケーションメディアの選択には,フルタイム･インティメイト･コミュニティ:「日常生活の中で直接対面してコミュニケーションする仲間と,心理的に24時間一緒にいるような気持ちになれる関係のあり方」のような,「学外でもつきあいのある相手－学内でしか会わない相手」という対人関係による使い分けが生じた。しかし,携帯電話保有歴による使い分けとして,携帯電話の取得学年による分析結果のデータ論議に関して,上記のようなフルタイム･インティメイト･コミュニティな対人関係において,「関係を維持する－関係を維持しない」･「集団－個人」のような対人関係も生じ,一概にフルタイム･インティメイト･コミュニティの要因がコミュニケーション選択の全てに働きかけるとも言いきれない。また,どのような環境時において,携帯電話というメディアを取得したかによるコミュニケーションの影響は,いかにその当時の環境が,今日の自分自身の行動に影響をきたすものなのかを知ることとなった。

今回の結果から,環境としての携帯電話は,使用者の環境を「変容させる道具」ではなく,使用者の環境を「強化する道具」と定義付けた。

テニスのコーチングについて事例研究
～A子との20ヶ月のレッスンを通じて～

健康科学部　健康生活学科　人間環境デザイン専攻
D0313110　　岡本　裕貴

一般的に,スポーツの選手（player）,すなわちある特定の技能（skill）の学習者に対して指導を行うことをコーチング（coaching）,指導者をコーチ（coach）という。また,コーチが学習者に対して行うそれぞれの具体的な指導をコーチング行動（coaching behavior）という。本研究では,テニスの技能を修得しようとする学習者,特に児童期の初級者（novices）に対するコーチングについて論じる。

そこで現在,著者が指導している選手を1つの事例としてとりあげ,観察記録を通じて,事例の対象についての有効なコーチング方法を考察することにする。それは,より一般化された有効なコーチング方法を確立するためではなく,1人1人の児童の技能や動機づけを考慮したコーチング行動の情報を,コーチ間で共有するためである。

事例としてとりあげた選手（以下A子）と出あったときからの観察記録を「事例の経過と考察」としてまとめ,A子のスキルが向上することで、A子の自身の動機がどう変化していったかを「総合考察」として論文にまとめた。

今回の事例について細かく記録,観察を取り始めたのは2006年6月以降である。また,1つの事例にしか過ぎないが,A子の観察記録から考察を行った結果を次のようにまとめた。

A子は,はじめ友達と楽しくテニスができれば満足という様であった。そんなA子に友達とよりテニスを楽しむためには,ラリーを行うためのスキルが必要であると介入を行った。そして,スキルが向上し始めたA子に,試合で出るように介入を行った。その結果,単にテニスによって身体を動かすのが「楽しい」「おもしろい」という動機から,テニスの「試合で勝ちたい」,「負けたくない」という動機が生まれ,後者の動機が強まる方向へと,A子の動機づけが変化していった。結果,A子の中に練習から試合への動機,試合から練習への動機という1つのサイクルを確立することができたのである。動機づけの1つサイクルが生まれたことで,外発的な動機から,A子自身の内発的な動機へと,テニスへの動機づけが変化していったのである。

高齢者社会

健康科学部　健康生活学科　人間環境デザイン専攻
D0313111　奥田　直樹

これからの社会はデータでみても高齢者が増えてきています。人口は、高齢者が多くなり、子供が少なくなってきていることから減少していく傾向にあります。そして今現在、ユニバーサルデザインが多くでてきています。ユニバーサルデザインは高齢者が自分自身でも使えるようなものが多いです。高齢者が増えてきている社会(高齢者社会)にとってはとても便利で使いやすいと思います。そこで僕は、いろいろなユニバーサルデザインを調べてみました。

ユニバーサルデザインには、まだまだ僕が知らないものばかりでした。例えばビンなどのフタが良い例だと思います。健常者、若者が普通にあけているフタでも高齢者にとっては、すべったりとてもあけにくいです。ユニバーサルデザインのビンのフタは、少しギザギザになっておりすべりにくくなっています。

ユニバーサルデザインは街の中でもよくみかけますが、こういった小さなものにでもユニバーサルデザインがつかわれています。そして、高齢者社会に伴い大手企業もユニバーサルデザインに目をつけているのも事実です。

ユニバーサルデザインは、これからの社会で必要不可欠なものです。しかし、その必要不可欠なユニバーサルデザインの商品を僕はあまり知りませんでした。

この論文で、どのようなユニバーサルデザインがあるか、どのようなときに使うのかがわかり、勉強になったと思います。そしてこれからももっとユニバーサルデザインのことをしっていきたいと思います。

ユニバーサルデザイン以外で僕ができることも考えてみました。事例やデータなどをみても、寝たきりの高齢者や自分自身ではなにもできない人が多いと思います。そして、僕は寝たきりになる前に何をしてあげなければならないかを考えました。論文にも書いたのですが、寝たきりになる前にも僕がしなければいけないことがたくさんありました。今現在、高齢者の死亡事故が増えています。こういった社会だからこそ、高齢者には元気でいてもらいたいし僕たちが少し手をさしのべてあげるだけで高齢者が助かる場合が多多あると思います。

高齢者が元気になり、もっと明るい社会になればよいと僕は思います。

今後、人それぞれが助け合える社会になっていけるように若い僕たちが努力していかなければいけないと思いました。

論文をするまでは、高齢者社会のことなど何もおもってなかったけれど今回調べていったことで僕にとってプラスになったと思います。

尼崎市における地域商店街の魅力と空間構成に関する考察

健康科学部　健康生活学科　人間環境デザイン専攻
D0313253　松本　千絵美

現在、ショッピングモールや大型店舗の進出の裏で、全国的に商店街や市場の衰退が進んでいることが問題となっている。人とのつながりが希薄化し、地域密着を掲げながらもコピーのような複合商業施設が増えている中、商店街は単なる物の売り買い以外に、商店街独特の温かい人と人とのつながりや関わり合いがあり、その土地らしさも演出する空間である。商店街の活性化に関してはアーケードの設置など様々な計画がなされているが、なかなか結果に繋がっていない。そこで本研究では商店街の新しい振興策について考える事を最終目的とし、まず地域商店街についての魅力と空間構成に着目して研究を始めた。

研究は、尼崎市の地域商店街のうち主要駅前商店街5つをピックアップして、先行調査として尼崎市が独自で行った商業者と消費者をそれぞれ対象とした商業関係調査結果を用いての比較研究、地図比較による近年20年間の空間構成の変化の研究、現地の観察調査などを行い、地域商店街の魅力と空間構成についての分析と考察を行うものである。

商店街の魅力に関して、先行調査では、「消費者は8割の人が魅力的だと評価しているが、商業者は半数以上が魅力を感じていない」と分析されており、この意識差も問題のひとつとなっていたが、今回の分析により、「商店街に魅力がある」という消費者からの評価と商業者からの評価は、実は比例の関係にある事がわかった。これにより、自店や自店のある商店街に対して商業者は魅力を把握できていないと考えられていたが、「商業者は自店のある商店街や自店に対して妥当な評価ができている」と言えることが分かった。

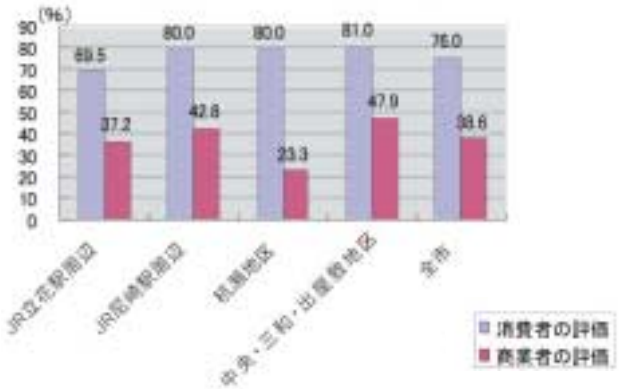
また、商店街や市場の衰退原因として、戦後のヤミ市から発生した商店街が当時は生活に必要不可欠であったがスーパーや大型店舗が存在する現在においてニーズがなくなってきている事はもちろん根底にある。その上で、一般的に商店街の衰退には空き店舗問題が取り上げられるが、本研究からは、空き店舗を持ちながらも繁栄する商店街と衰退する商店街の違いに「衰退していく商店街は空き店舗となった跡が住宅化している」という事が見出せた。

最終的に、商店街商店街の振興については複雑すぎる問題と奥の深い問題であると痛感し、少し触れただけでひとつの答えを述べられるような簡単なものではなかった。ただ、再建を考えたとき、消費者が「魅力がある」「魅力がない」と評価する時点で、現在の商店街は遅れをとっているのだという事を思う。目指すべき商店街は「魅力ある個店の集合である商業集積地」であるが、それを、現在のニーズに合わせて作っていくのでは、近い将来また商店街は衰退する事となる。商店街の再建を図るのであれば、消費者に合わせた「ニーズの把握」ではなく、商業者のほうからアプローチできる商店をつくり、消費者よりも一歩先を歩いていなければならない。

本研究のみでは具体的な振興策へと導く事はできなかったが、商店街の利用率と消費者の感じている商店街への魅力度を照らし合わせると、「商店街の振興は実現が困難なものではなく、今後方法次第ではむしろ潜在的な期待値を含んでいるのではないか」という事を見出せた事が、今後に向けての収穫であった。

図1　研究対象とした駅前商店街

図2　商店街別　「魅力がある」と評価した数



註）平成16･17年度尼崎市民の買い物に関するアンケート調査
平成16年度　特定経済動向調査

自閉症児の発達支援に関する一考察

健康科学部　健康生活学科　人間環境デザイン専攻
D0313254　丸山　雄司

自閉症は脳障害を基盤とする発達障害であることは,今日では広く知られるようになってきている。しかし,正しく理解する機会がなければ文字だけで理解してしまい,心理的な理由から生じるものだと認識してしまう傾向にある。誤った理解をする人の一部の人が「育て方が悪いからだ」と自閉症児やその保護者に対して心無い言葉を発したために,その結果,傷ついてしまっている親子が少なくない。このような現状から自閉症児の支援や教育を行っている行政機関や教育機関では,自閉症だけではなくその保護者への支援や関わりも重要である。このような考えのもとに調査を行うにあたって以下の仮説を立てた。

仮説1

自閉症児自身に対する支援に比べて,その保護者への支援や関わりが
不十分なのではないだろうか

仮説2

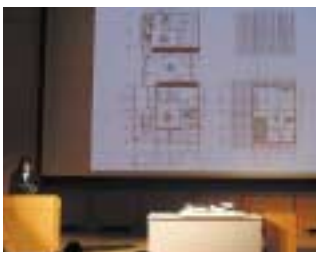
発達支援に対する考え方として,自閉症児自身が現在できないことをできるようにする,
ということだけに重点を置きすぎているのではないか

今回の研究で調査対象とした行政機関等での調査結果によると,2つの仮説とも実証されなかった。それぞれの行政機関等の自閉症児の支援の課題は「自閉症児と保護者が幸せな家庭生活を送ることができるよう長期に渡り,よりよい支援を行うこと」ということであった。このことから各行政機関等では自閉症児が一つのことができるようにという狭い視野ではなく,自閉症児が今,出来る力をありのまま受け入れ,家族と幸せな生活が送れるようにという,広い視野での支援に重点を置いて行っていることが分かった。仮説1の保護者とのかかわりについても各行政機関等はしっかりと行っていた。たとえ行政機関や療育機関あるいは教育機関が自閉症児に対してだけの支援を行っても,我が子のことを一番に考えているのは保護者である。従って保護者へのサポートなくしては支援が成り立たない,ということが分かった。また,それぞれの行政機関等の発達支援の方法も一様ではなく,その支援機関によってさまざまな取り組みが行われていることが本調査を実施したことで知ることができた。本調査をきっかけに,自閉症に関する知識を深め,発達支援に関するイベント等があれば,積極的に参加したい。

学生名簿

D0313101　安東寛晃
D0313102　稲垣　豪
D0313103　稲垣祐司
D0313104　井上朋信
D0313105　岩本明日香
D0313106　上村兼一
D0313107　瓜野貴之
D0313108　種田奈央美
D0313109　大野慎弥
D0313110　岡本裕貴
D0313111　奥田直樹
D0313112　金城商助
D0313113　北川晃久
D0313114　黒田　壌
D0313115　小坂晃司
D0313116　小西可奈子
D0313117　小山　慧
D0313118　西家一隆
D0313120　坂本竜之介
D0313121　崎山　亮
D0313122　重山晃輝
D0313124　島村聡介
D0313125　下川愛美
D0313126　白井達也
D0313128　武田章吾
D0313129　辰巳和洋
D0313130　田中利典
D0313131　寺本望美
D0313132　得永真由美
D0313233　俊田浩幸
D0313234　中井一貴
D0313236　仲河美里
D0313237　西山直樹
D0313238　野澤春城
D0313239　野中宏恵
D0313240　橋口雄祐
D0313241　橋本政幸
D0313242　服部早織
D0313243　東島功治
D0313244　福田悠起
D0313245　藤木大輔
D0313246　藤山昌平
D0313247　槙尾善弘
D0313248　松井良太
D0313250　松田康宏
D0313252　松原　仁
D0313253　松本千絵美
D0313254　丸山雄司
D0313255　三橋俊介
D0313257　南口晃平
D0313259　森岡大道
D0313260　八木久恵
D0313262　吉川久嗣

発表･展示風景



卒業制作·論文作品集 1

2007年3月20日 発行

発行　畿央大学　健康科学部
　　健康生活学科　人間環境デザイン専攻
　　代表　学長　冬木 智子
　　〒635-0832　奈良県北葛城群広陵町馬見中4-2-2
印刷　株式会社　明新社